

木材需給動向について (全国)

令和3年4月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

(2) 合板（全国）

(3) プレカット稼働率（地域別・全国）

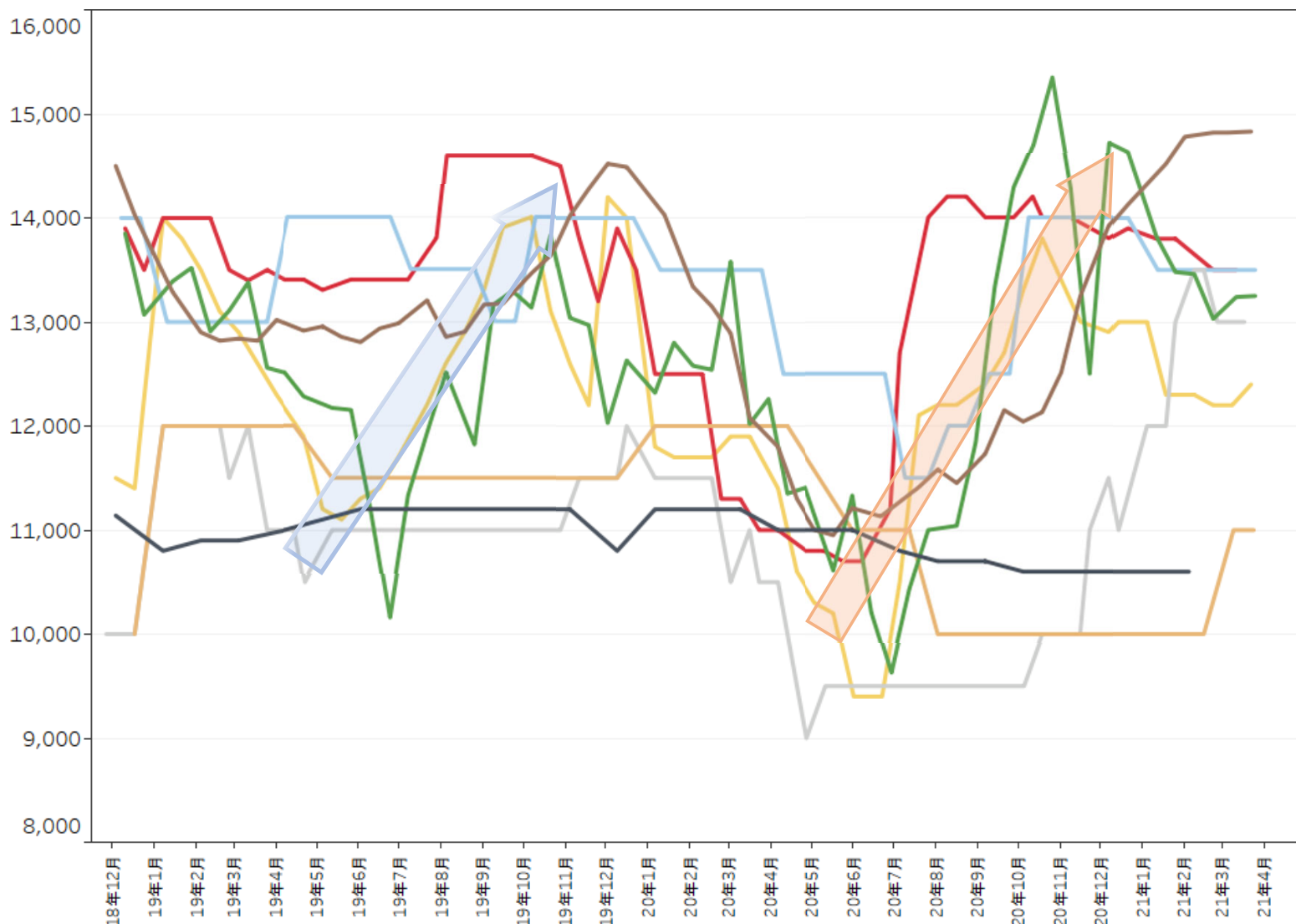
(4) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の推移

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)

ア スギ(全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換。11月頃に前年と同程度まで上昇しており、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年3月のスギ原木価格は、対前年比8%減から23%増と増加している地域が多い。



都道府県(樹種)

- 北海道(カラマツ)
- 秋田県(スギ)
- 栃木県(スギ)
- 長野県(スギ)
- 岡山県(スギ)
- 高知県(スギ)
- 熊本県(スギ)
- 宮崎県(スギ)

	R2.3	R3.3	R3.3/R2.3
北海道	11,200	10,600	-5%
秋田県	12,080	14,830	23%
栃木県	12,020	13,250	10%
長野県	12,000	11,000	-8%
岡山県	11,000	13,000	18%
高知県	13,500	13,500	0%
熊本県	11,300	13,500	19%
宮崎県	11,900	12,400	4%

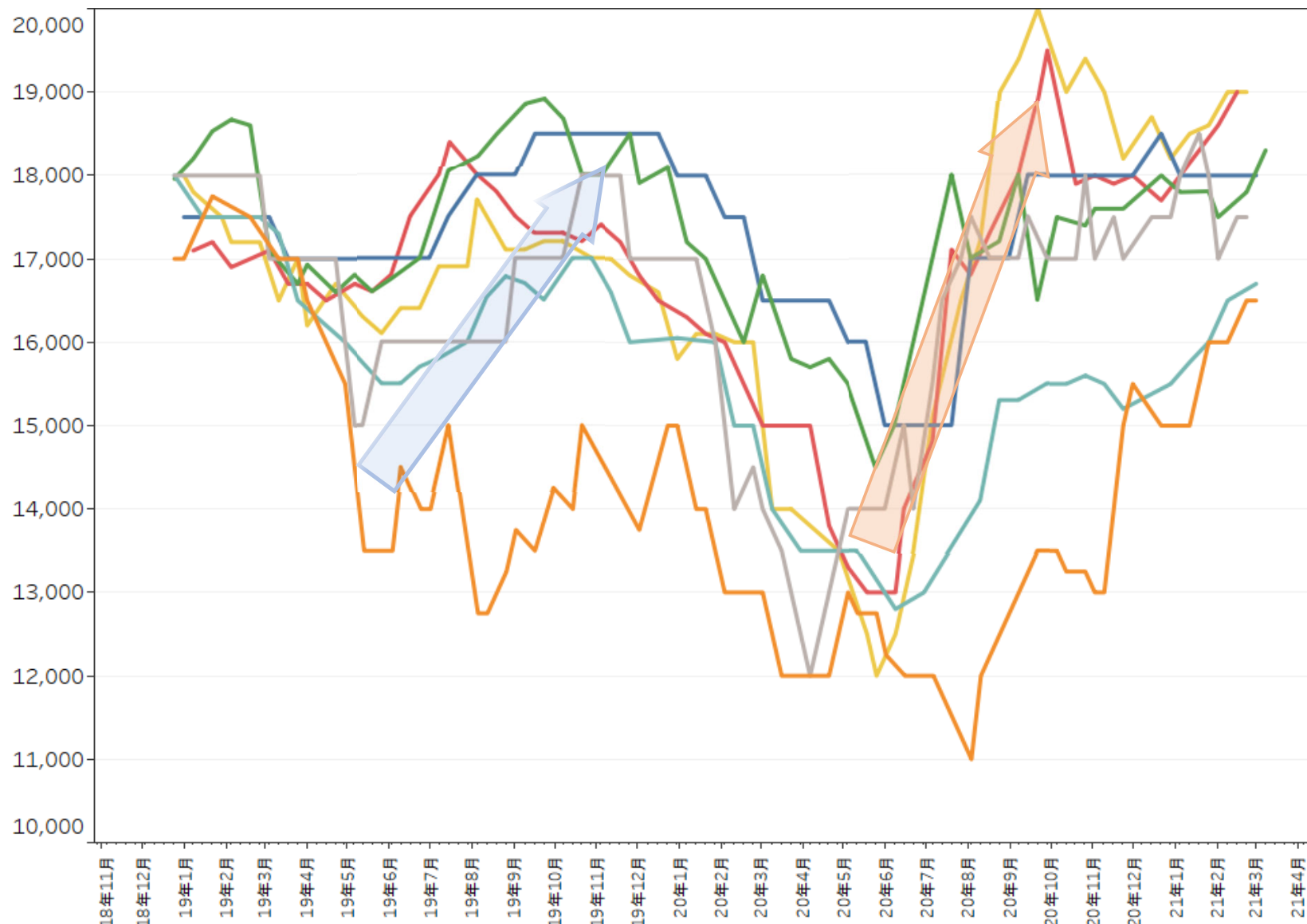
注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、令和2年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、10月頃には昨年同程度かそれ以上の価格まで回復している地域も見られる。
- 令和3年3月のヒノキ原木価格は、対前年比9%~27%増と増加している地域が多い。



都道府県(樹種)リスト

- 兵庫県(ヒノキ)
- 岡山県(ヒノキ)
- 広島県(ヒノキ)
- 愛媛県(ヒノキ)
- 高知県(ヒノキ)
- 熊本県(ヒノキ)
- 大分県(ヒノキ)

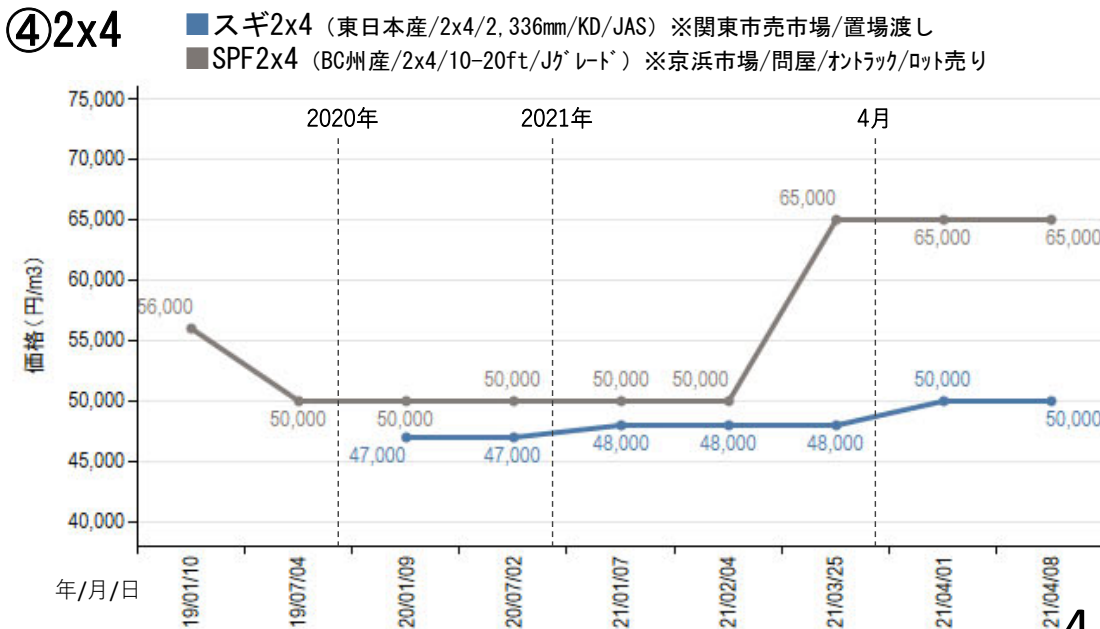
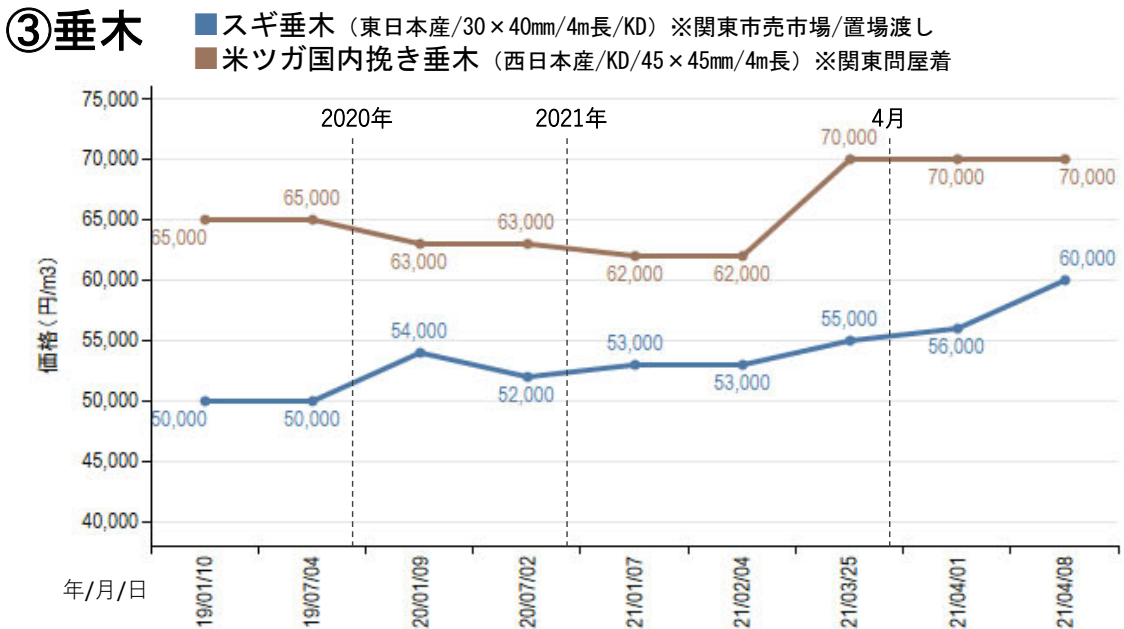
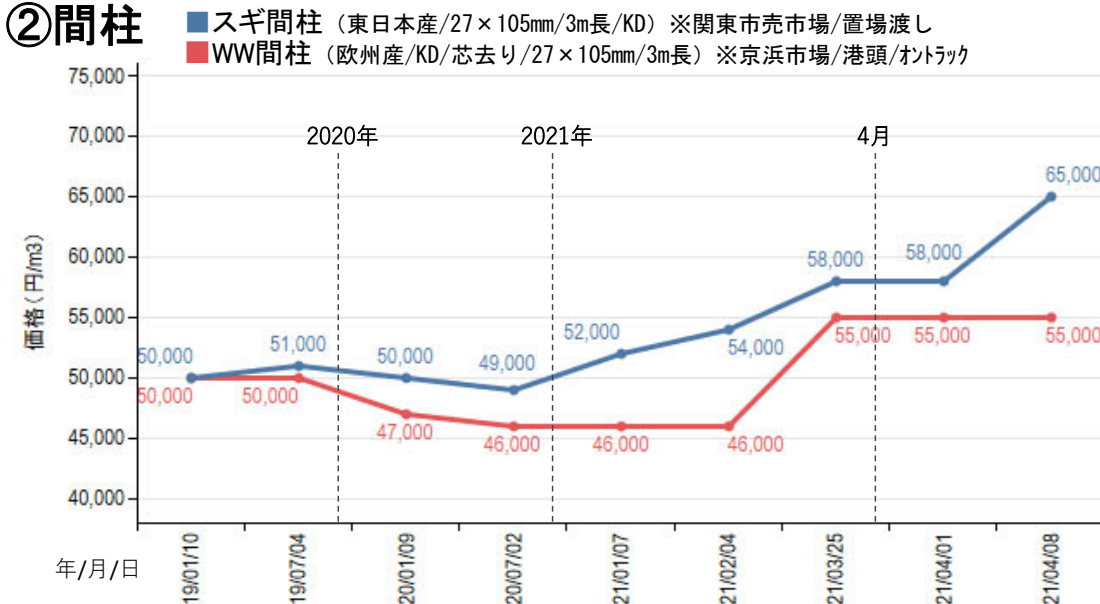
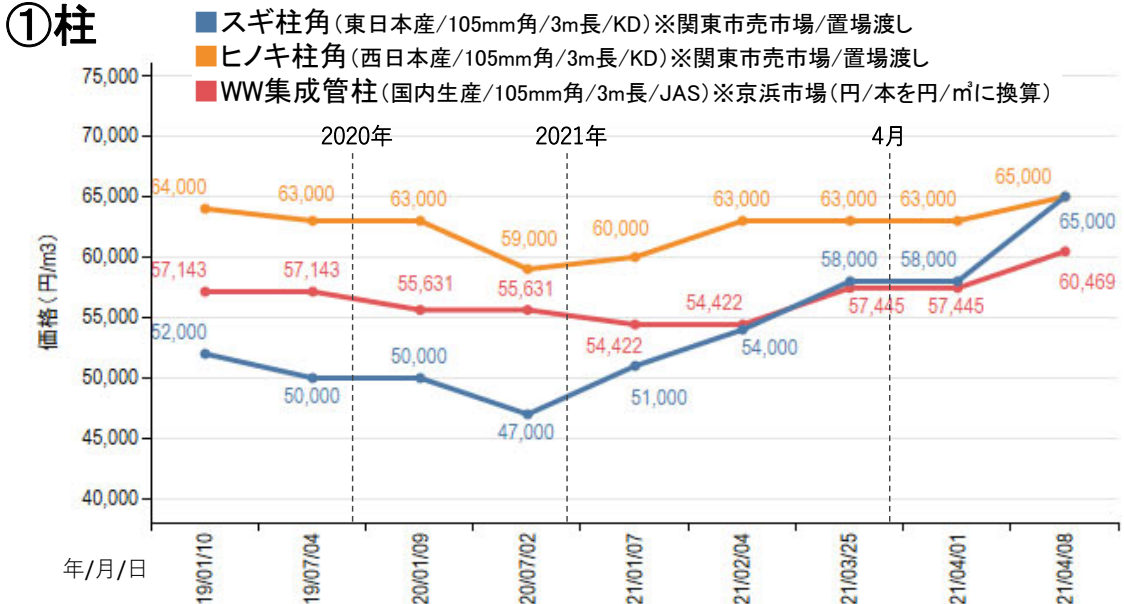
	R2.3	R3.3	R3.3/R2.3
兵庫県	13,000	16,500	27%
岡山県	14,500	17,500	21%
広島県	15,000	16,700	11%
愛媛県	16,800	18,300	9%
高知県	16,500	18,000	9%
熊本県	15,000	19,000	27%
大分県	16,000	19,000	19%

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

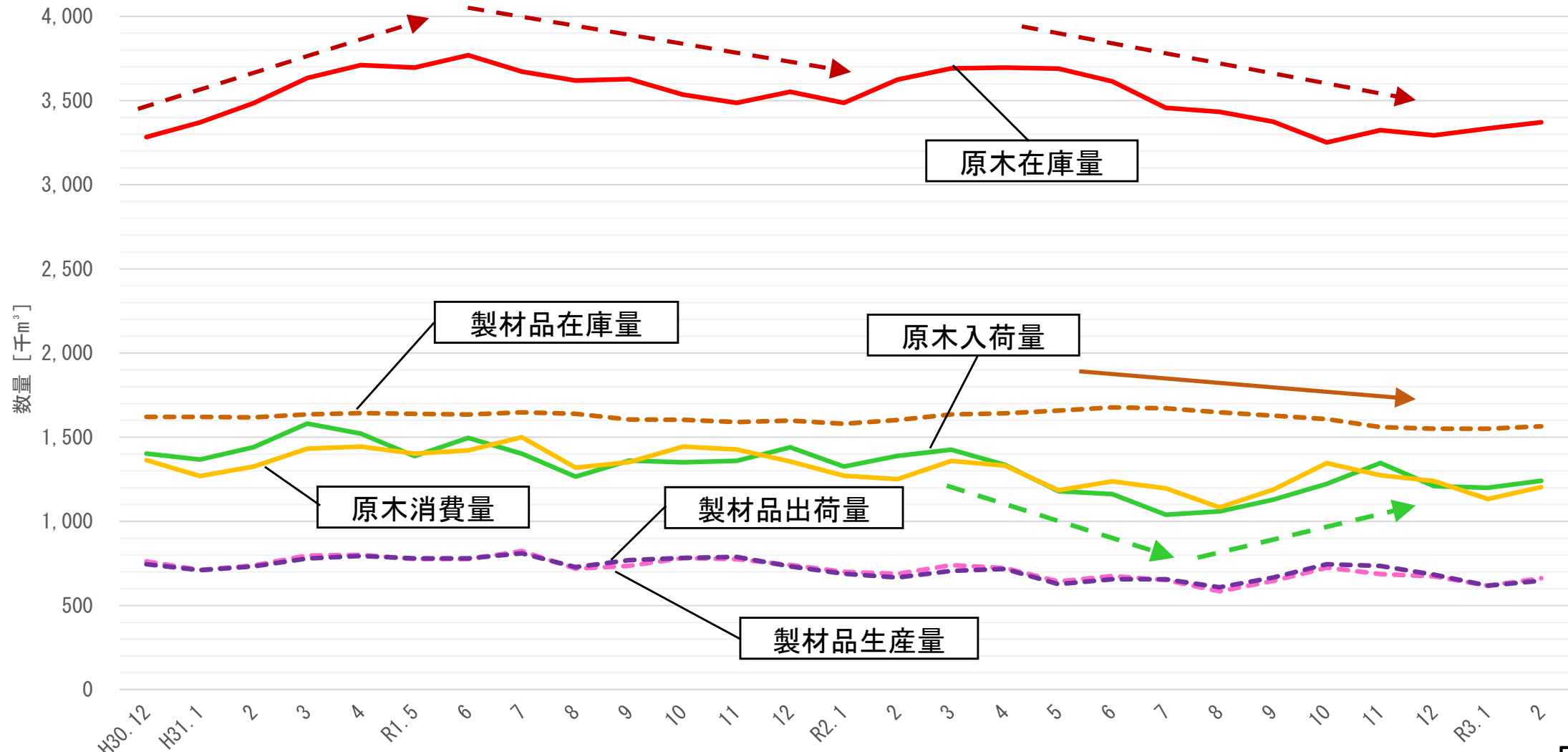


資料：木材建材ウイクリー

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

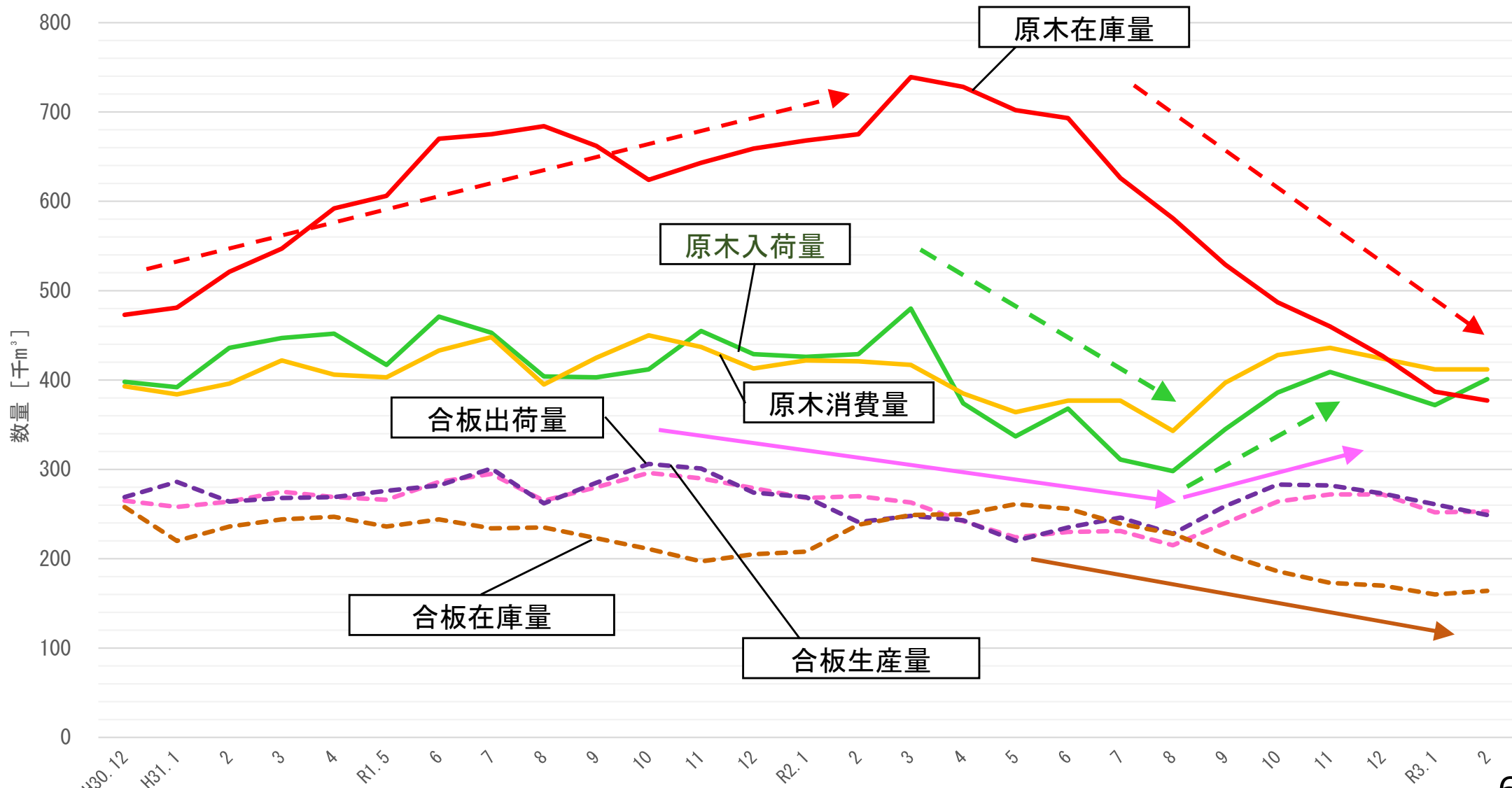
- 原木の入荷量、消費量は、令和2年4月以降減少したが、8月から上昇に転じている。12月には原木不足の影響からやや減少した。原木の在庫量は微増傾向にあるが、例年の季節変動の範囲。
- 令和2年の製材品の生産量、出荷量は、数ヶ月で増減を繰り返したものの令和元年に比べ、年間で見れば1割の低下となった。在庫量は令和2年6月以降緩やかな減少傾向にある。



資料: 農林水産省「製材統計」

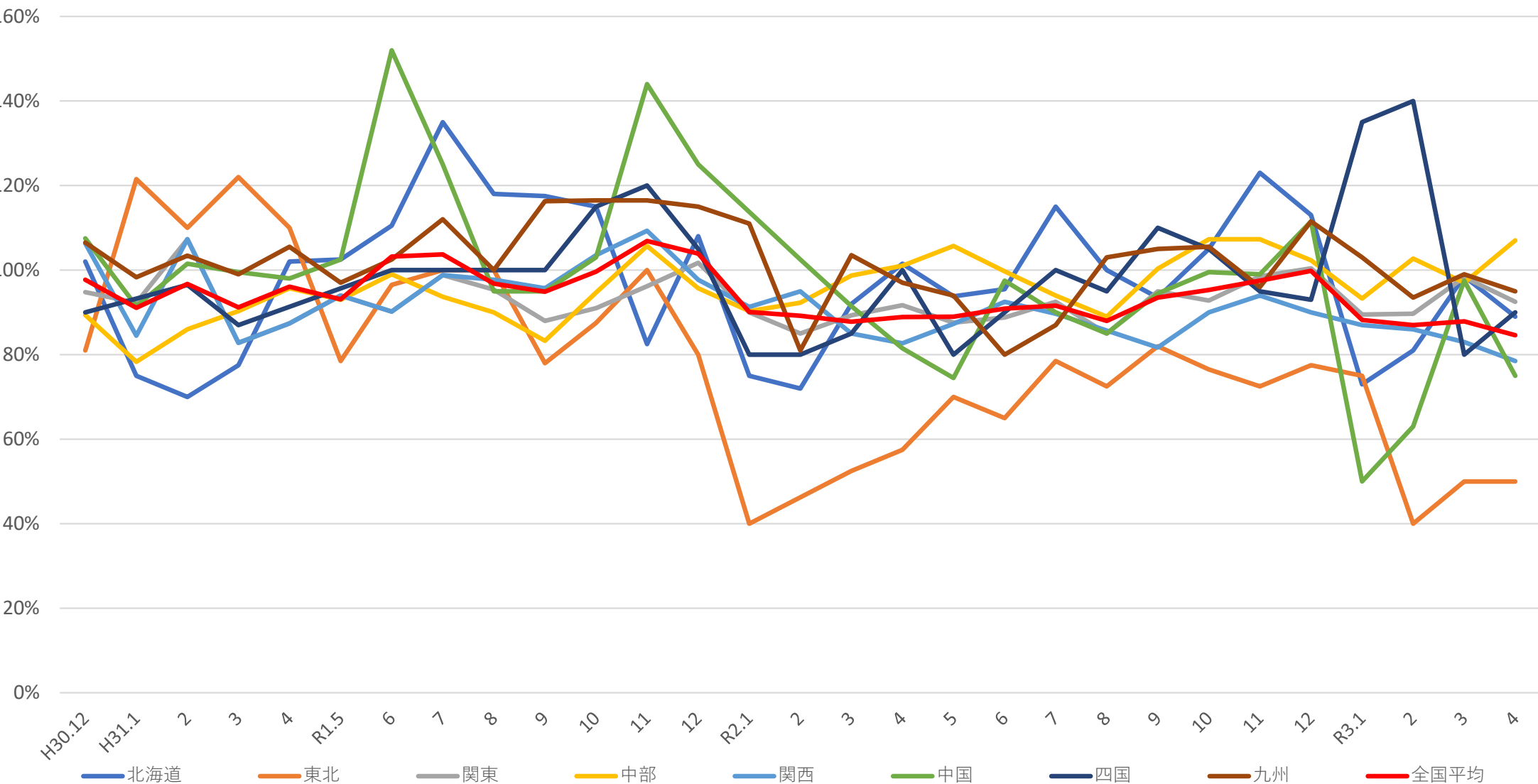
(2) 合板 (全国)

- 原木の在庫量については、令和2年4月以降急激な減少傾向が続いている。
- 原木の入荷量は令和2年4月以降減少していたが、9月以降は増加に転じた。12月以降は原木不足のため減少傾向だったが2月は増加。
- 合板の生産量、出荷量は、令和元年10月以降減少していたが、令和2年9月から増加に転じた。一方、製品在庫は6月以降、減少傾向にある。



(3) プレカット稼働率 (地域別・全国)

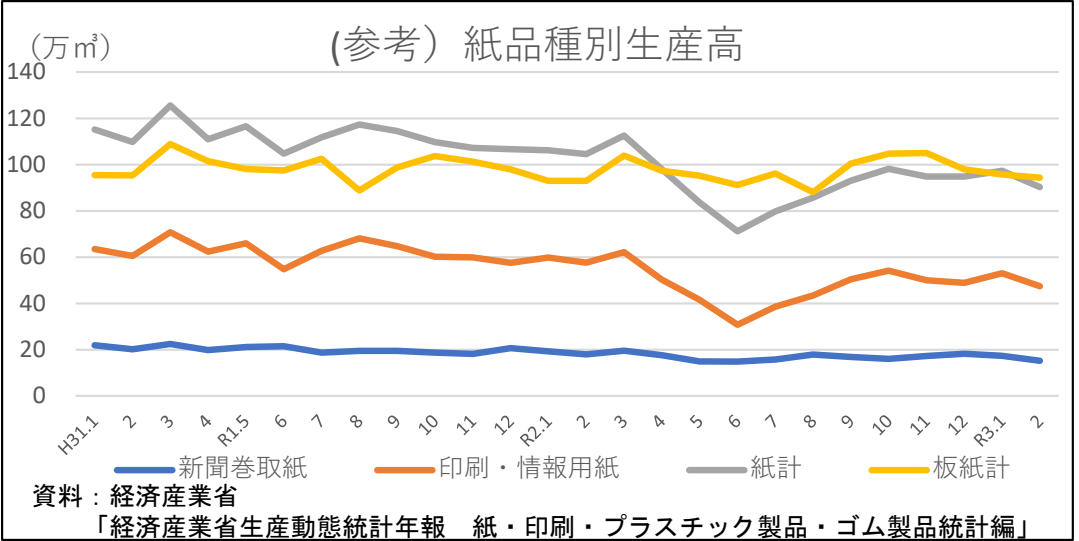
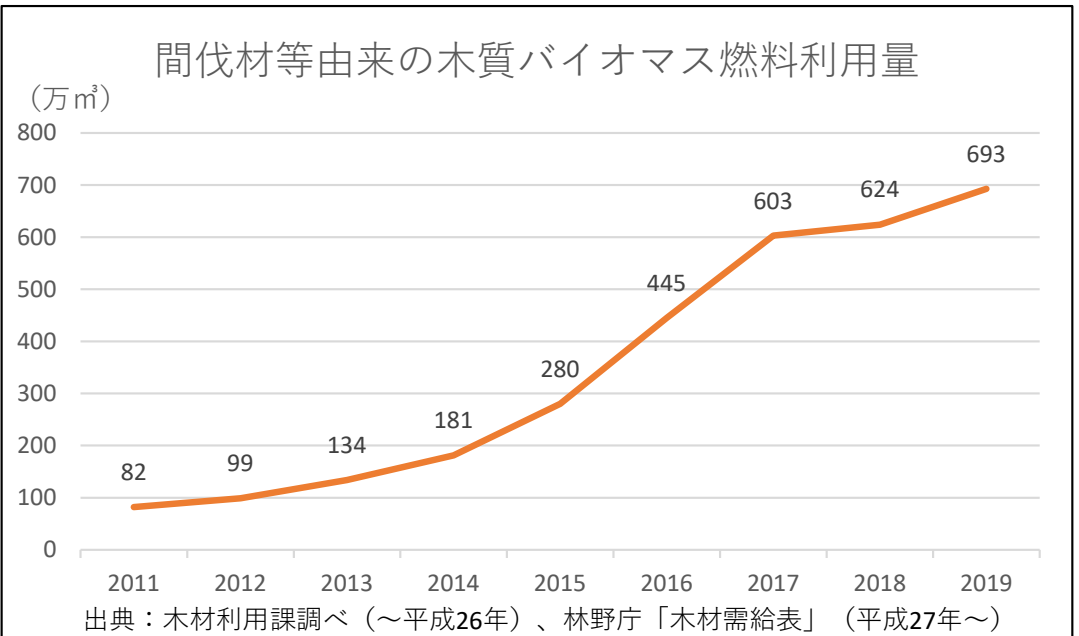
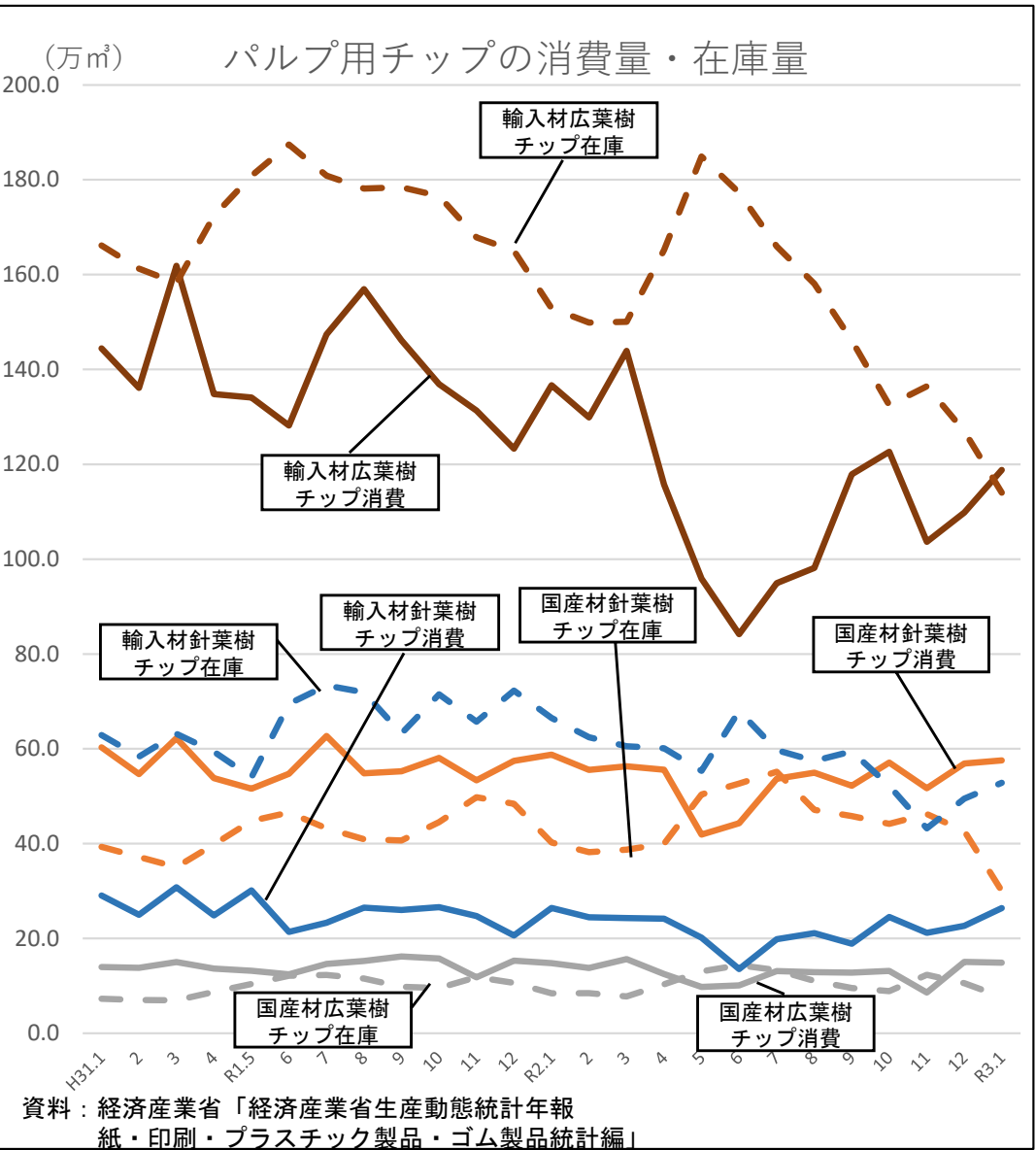
- プレカット稼働率は、全国的には令和2年2月を底に12月まで緩やかな上昇傾向が見られた。令和3年1月には例年同様に減少傾向が見られる。
- 令和2年全体を通じて、東北地区では大きな落ち込みが見られた。



資料：日刊木材新聞調べ ※ 稼働率% = 加工量/加工能力、3月分は受注、4月分は見積もり

(4) チップ (全国)

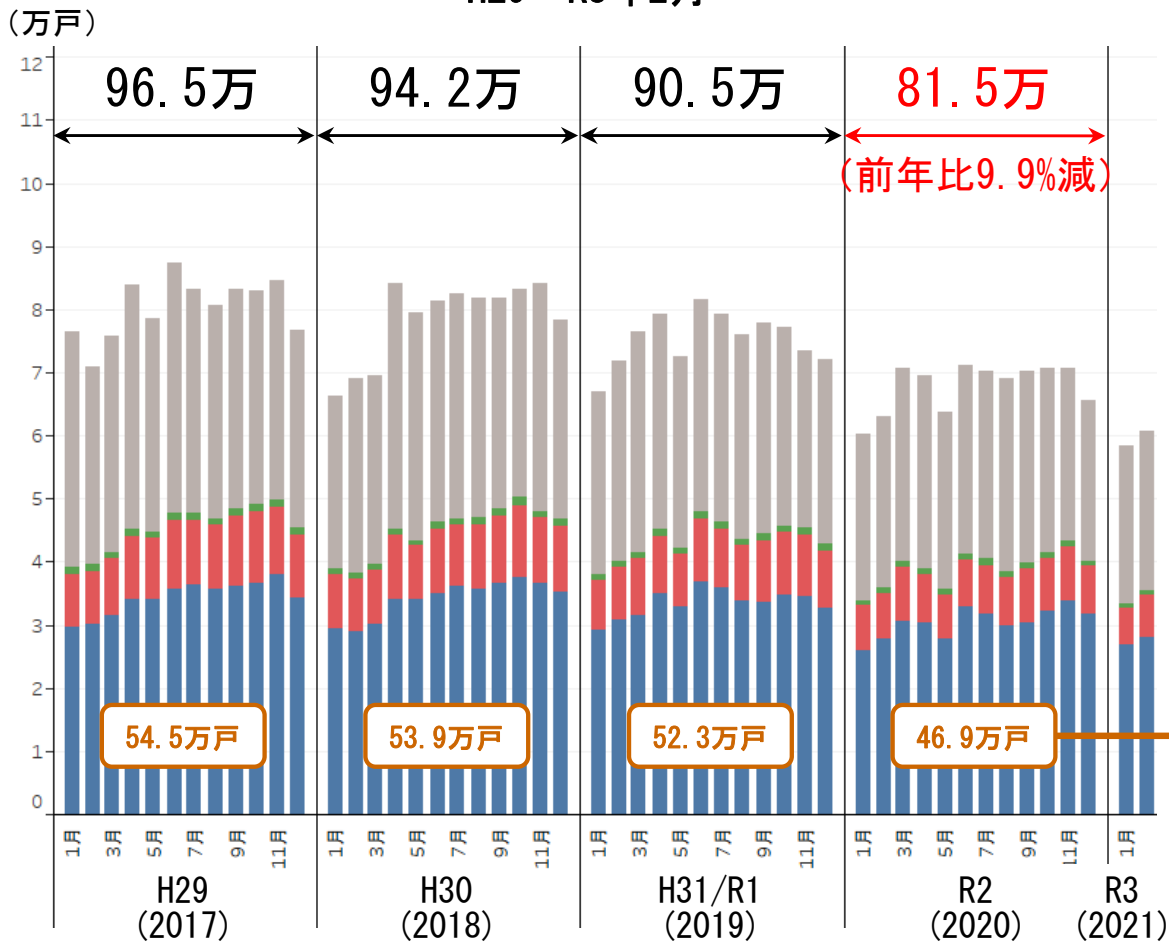
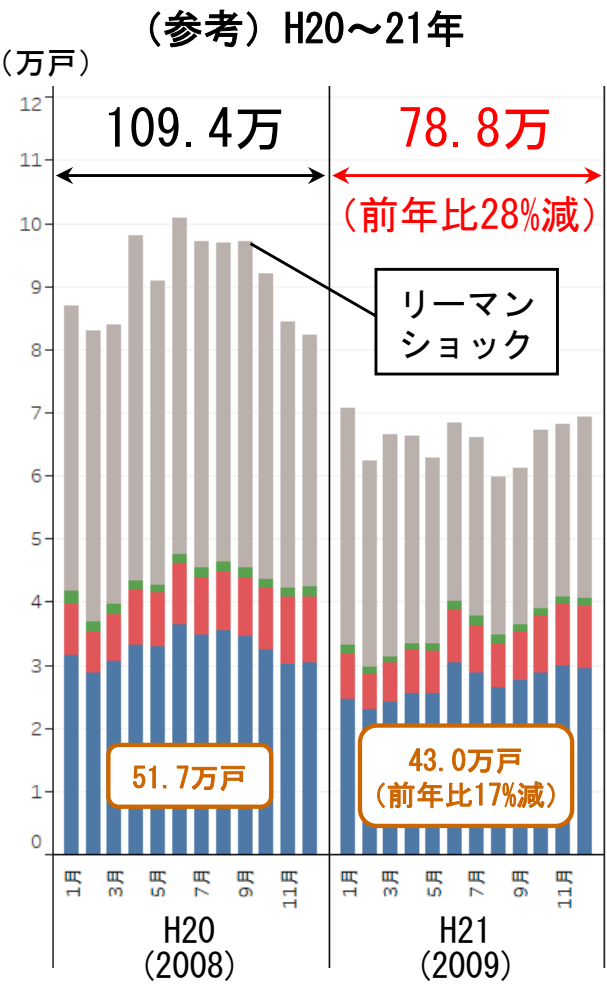
- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。



3 住宅着工数の推移 (平成20年1月～令和3年2月)

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）。木造住宅は46.9万戸（前年比10.3%減）。
- 令和3年1～2月の新設住宅着工戸数は、11.9万戸（前年比3.4%減）。
- 緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショックほどの落ち込みは見られなかった。

新設住宅着工戸数の推移
H29～R3年2月



令和2年1～12月期
住宅着工戸数

総計 81.5万戸
(前年比9.9%減)

■ 非木造 : 34.6万戸
(前年比9.4%減)

■ 木造 46.9万戸
(前年比10.3%減)

(内訳)

■ 木質プレハブ : 1.1万戸
(前年比10.6%減)

■ 2×4 : 9.3万戸
(前年比15.2%減)

■ 在来軸組 : 36.5万戸
(前年比9.0%減)

資料：国土交通省「住宅着工統計」

(参考) 住宅着工数の推移：利用関係別

- ・ 利用関係別の木造率は、持家が最も高い。住宅着工数（全構造）は、前年同月と比べて持家が増加傾向、貸家は低調。
- ・ 令和3年2月の季節調整済年率換算値は計80.8万戸で2か月連続の増加。

① 利用関係・構造別着工戸数（万戸）及び木造率（%）

構造	利用関係	R2年着工数の木造率(%)
■ 非木造	計	57.6%
■ 木質パレブ*	持家	87.4%
■ 2×4	貸家	36.3%
■ 在来軸組	分譲住宅	53.3%

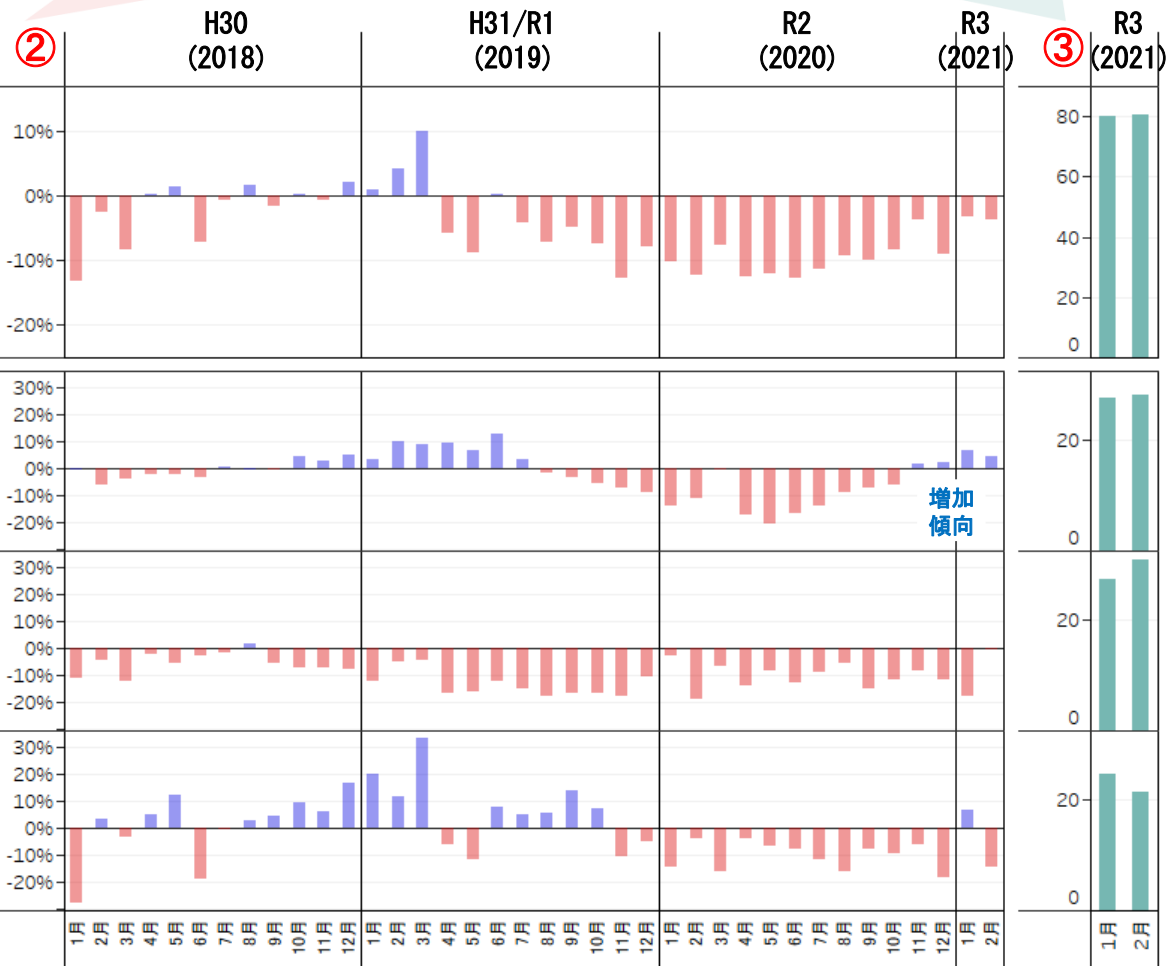
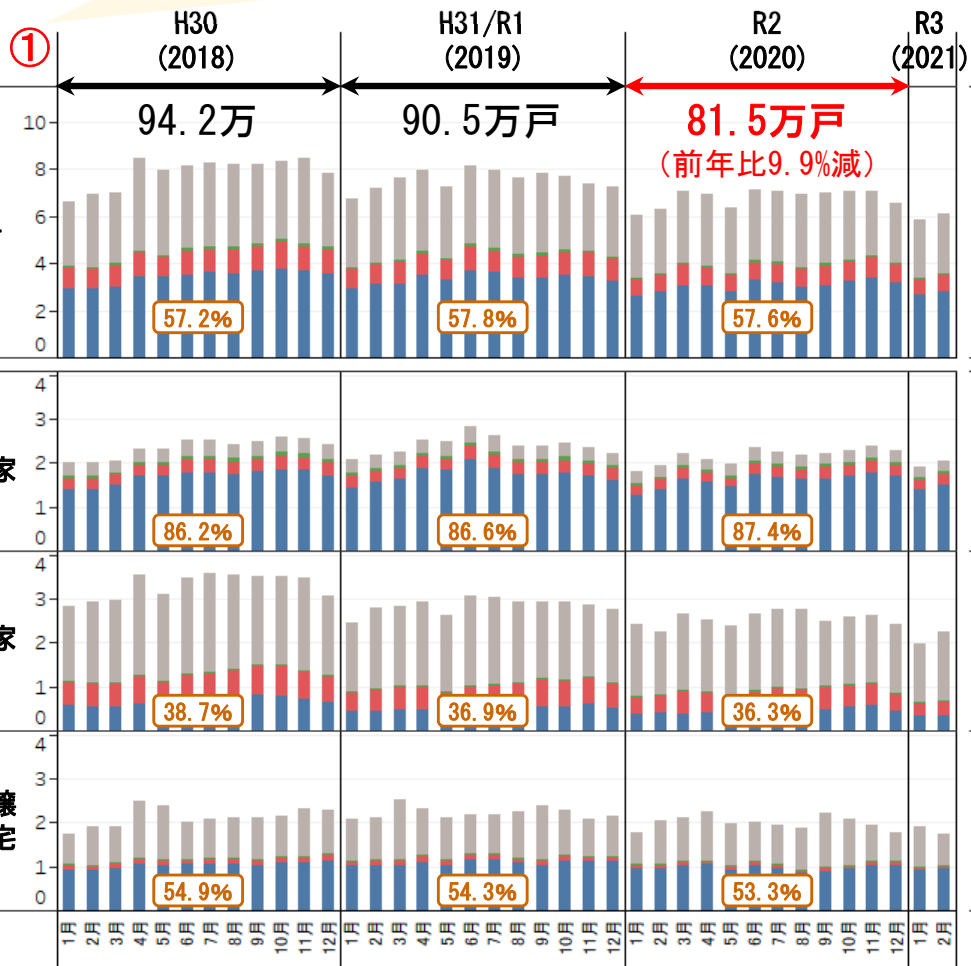
木造率(%)

② 住宅着工戸数（全構造）の前年同月比（%）

- ・ 持家についてはR2年11月以降、前年同月と比べて増加傾向

③ 季節調整済年率換算値（万戸）

利用関係	R3年2月（前月比）
計	80.8万戸（前月比0.8%増）
持家	28.1万戸（前月比1.5%増）
貸家	30.9万戸（前月比13.2%増）
分譲住宅	21.2万戸（前月比13.9%減）



注：利用関係については「給与住宅」を除く。

資料：国土交通省「住宅着工統計」